

第29回日本医療薬学会年会実施報告書

第29回日本医療薬学会年会
年会長 武田 泰生
鹿児島大学病院 教授・薬剤部長

事業名： 第29回日本医療薬学会年会

主催者名： 一般社団法人日本医療薬学会

年会長： 武田泰生(鹿児島大学病院 教授・薬剤部長)

会 頭： 奥田真弘(大阪大学医学部附属病院 教授・薬剤部長)

後 援： 一般社団法人日本病院薬剤師会、公益社団法人日本薬剤師会、
一般社団法人鹿児島県病院薬剤師会、一般社団法人福岡県病院薬剤師会、
公益社団法人鹿児島県薬剤師会、公益社団法人福岡県薬剤師会、
日本薬科機器協会

実施日程： 2019年11月2日(土)～4日(月・祝)

実施場所： 福岡国際会議場 〒812-0032 福岡市博多区石城町 2-1
福岡サンパレス 〒812-0021 福岡市博多区築港本町 2-1
マリンメッセ福岡 〒812-0031 福岡市博多区沖浜町 7-1
ホテル日航福岡 〒812-0011 福岡市博多区博多駅前 2-18-25

会場数 講演会場:16会場
ワークショップ会場:1会場
ポスター会場:1会場
展示会場:1会場

年会の趣旨

第29回日本医療薬学会年会を2019年11月2日(土)から4日(月・祝)にかけて、福岡国際会議場・マリンメッセ福岡・福岡サンパレス(福岡県福岡市)において開催した。

近年の次世代シーケンサーや分子標的薬の開発に伴うがんゲノム医療の推進、ファーマコビジランスにおけるMID-NETやJADERなどの医療ビッグデータの利活用、さらに近い将来実現するであろう人工知能や情報通信技術を活用した業務支援システムの開発など、今後の医療薬学の展開においては新たな時代に適応した役割が求められている。2019年は年号が変わり、このような新しい時代の幕開けともなる本年会では、メインテーマを「新しい時代を担う医療薬学のこれから～薬学の英知の結集～」とした。医療が益々複雑化・高度化していく中において、全国各地から多くの方々にお集まりいただき、今後の医療薬学に求められることは何かを一緒に考え、新しい時代を担う医療薬学のこれからのことについて議論する場としたいと考え企画した。

本年会では、最先端の医療や研究でご活躍されている国内外の先生をお招きし、近年のニーズに即した最新のテーマを中心に、7つの特別講演を企画した。また、公募シンポジウムは103件の応募があり、66件を採択した。一般演題については、口頭発表366題、ポスター発表1,295題を採択した(国際セッションを含む)。その他、International Symposium(国際シンポジウム)、各受賞講演、ワークショップ、市民公開講座など、最新の興味深い内容を企画した。

本年会は、これまでに引き続き会期を3日間とし、ゆとりあるプログラム編成を心がけた。講演要旨集はwebとアプリとし、冊子体は持ち運びがしやすいようにプログラム集とした。会場には可能な限り広い部屋を使用するとともに、会場に入りきらなかった参加者のために中継会場や室外のモニターを設置し、参加者の利便性向上に努めた。また託児室の整備などについても配慮した。さらに薬剤師研修センター研修受講シールの管理方法変更に伴う当日配布の混雑を回避するため事前申請システムを構築し運用した。

会費等の設定:

参加費	正会員	非会員	学生	懇親会	一般	学生
事前参加登録	9,000円	13,000円	3,000円	事前参加登録	8,000円	4,000円
当日参加登録	13,000円	16,000円	4,000円	当日参加登録	10,000円	5,000円

プログラム集:2,000円

市民公開講座:無料

事業内容:

1. メインテーマ『新しい時代を担う 医療薬学のこれから ~薬学の英知の結集~』
2. 年会長講演 1題
3. 会頭講演 1題
4. 特別講演 7題
5. 日本医療薬学会 学術貢献賞・奨励賞受賞講演 4題
6. 日本医療薬学会 Postdoctoral Award 受賞講演 7題
7. International Symposium(国際シンポジウム) 2セッション
8. シンポジウム(公募) 66セッション
9. ワークショップ 2セッション
10. 市民公開講座 1セッション
11. 専門薬剤師育成委員会からの重要なお知らせ
12. 一般演題 1,661題
 - 1) 口頭 360題(うち優秀演題候補36題)
 - 2) ポスター 1,272題
 - 3) International Session(口頭6題、ポスター23題)
13. メディカルセミナー 40セッション
14. 日本薬科機器協会ワークショップ

参加者数:

	参加登録					懇親会		
	正会員	非会員	学生	海外	その他	一般	学生	その他
事前登録	5,225	1,617	106	-	-	350	1	-
当日登録	444	785	32	53	146	72	1	46
計	8,408					470		

運営組織:

年会長 武田 泰生 鹿児島大学病院

〈組織委員〉

家入 一郎	九州大学	齋藤 秀之	熊本大学病院
池田 龍二	宮崎大学医学部附属病院	佐々木 均	長崎大学病院
伊東 弘樹	大分大学医学部附属病院	下堂 薫 権洋	九州保健福祉大学
岩崎 克典	福岡大学	中嶋 幹郎	長崎大学
植木 哲也	産業医科大学病院	中嶋 弥穂子	崇城大学
上野 泰弘	公益社団法人鹿児島県薬剤師会	中村 克徳	琉球大学医学部附属病院
上山 誉晃	株式会社薬事新報社	原口 亨	公益社団法人福岡県薬剤師会
折井 孝男	河北総合病院	増田 智先	九州大学病院 (現国際医療福祉大学・同成田病院)
甲斐 広文	熊本大学		
神村 英利	福岡大学病院	三輪 涼子	久留米大学病院
北原 隆志	山口大学医学部附属病院	山口 辰哉	長崎国際大学
木村 早希子	佐賀大学医学部附属病院		
黒川 陽介	山陽小野田市立山口東京理科大学		

〈実行委員〉

有馬 純子	鹿児島大学病院	菅原 英輝	鹿児島大学病院
稲葉 一郎	株式会社 ハートフェルト	寺 薫 英之	鹿児島大学病院
井上 和啓	鹿児島大学病院	野添 大樹	サザン・リージョン病院
入江 利行	小倉記念病院	平川 良宏	福岡みらい病院
牛之濱 風見	鹿児島大学病院	平原 康寿	宮崎大学医学部附属病院
江頭 伸昭	九州大学病院	深水 知英	鹿児島大学病院
江川 孝	福岡大学	福岡 龍一	鹿児島市立病院
大磯 茂	長崎国際大学	二川 俊隆	鹿児島大学病院
金谷 朗子	九州大学病院	松尾 宏一	福岡大学筑紫病院
幸田 恭治	山口大学医学部附属病院	松元 一明	慶應義塾大学
兒玉 幸修	長崎大学病院	宮崎 長一郎	有限会社宮崎薬局
佐藤 雄己	大分大学医学部附属病院 (現福山大)	室 高広	長崎大学病院
		屋地 慶子	鹿児島大学病院
城野 博史	熊本大学病	吉水 久純	公益社団法人鹿児島県薬剤師会

事業成果

第29回日本医療薬学会年會を、2019年11月2日(土)～4日(月・祝)の3日間、福岡国際会議場・福岡サンパレス・マリンメッセ福岡・ホテル日航福岡(福岡県福岡市)において開催した。参加者は国内外からの招待者を含め8,400名を超える参加者となった。

本年會のテーマは「新しい時代を担う 医療薬学のこれから ～薬学の英知の結集～」とした。特別講演1では厚生労働省医薬・生活衛生局総務課の安川孝志先生が「病院薬剤師に期待すること」と題して、薬機法改正の法案作成に至るまでの背景とともに、法改正を踏まえた今後の薬剤師に期待することを行政側の立場からご講演いただいた。特別講演2では国際薬剤師・薬学連合(FIP)病院薬剤師部門のRobert J. Moss先生が「A global perspective on the future of pharmaceutical healthcare in hospital related settings」と題して、病院薬剤師の新しい業務展開やこれまでの役割をどのように発展させているのか世界的なトレンドなどについてご講演いただいた。特別講演3ではNRIセキュアテクノロジーズ株式会社 DXセキュリティ事業本部セキュリティサービス開発部の小屋松美佳先生が「DXが医療の現場にもたらすもの～全ての医療従事者が認識しておくべき、変化とセキュリティリスクと心構え～」と題して、デジタルヘルスの趨勢と医療現場における特殊性を踏まえたサイバーリスク、攻撃被害例、医療従事者が日頃から心得ておかなければならないことなどについてご講演いただいた。特別講演4では浜松医科大学医学部附属病院医療情報部の木村通男先生が「AI時代の医療」と題して、AIによる自動診断支援とその問題点、またAIブームの時代において医師や薬剤師は患者の個性に対応する職能を磨いていくことの重要性についてご講演いただいた。特別講演5では自然科学研究機構生理学研究所の鍋倉淳一先生が「グリア細胞による病態時の大脳皮質神経回路再編:慢性疼痛を中心として」と題して、2光子励起顕微鏡を用いた各種病態モデルマウスにおける大脳皮質神経回路の長期変化とアストロサイトおよびミクログリアの関与における研究成果についてご講演いただいた。特別講演6ではMemorial Sloan Kettering Cancer CenterのStephen Harnicar先生が「Medication Safety in a Complex Oncology Landscape」と題して、がん薬物療法の安全性確保に関するベストプラクティスとして、院内の薬物療法に関するエラーを報告する体制構築、専門薬剤師の活用による安全な薬物療法の推進など米国における多くの取り組みについてご講演いただいた。特別講演7では北九州市立病院機構の中西洋一先生が「肺癌薬物療法の歴史と未来」と題して、進行非小細胞肺癌の薬物治療の変遷、近年におけるドライバー遺伝子の発見と分子標的薬、さらに免疫チェックポイント阻害薬による最新の治療についてご講演いただいた。市民公開講座では独立行政法人地域医療推進機構久留米総合病院の田中真紀先生、社会医療法人博愛会相良病院の相良安昭先生、がん研究会有明病院の大野真司先生より「乳がんの最新情報～あなたとあなたの家族のために～」をテーマにそれぞれご講演いただいた。

公募シンポジウムは103件の応募があり、66セッションを採択した。先端的な研究や日頃の業務の中から抽出された課題など、多彩な領域を網羅する企画が応募された。メインテーマに関係するものとしては、遺伝子検査やビッグデータに関するシンポジウムが採択された。また専門領域に関するシンポジウムの応募も多く、主要ながん薬物療法、感染制御、栄養管理はもちろんのこと、近年注目されている周術期や集中治療などハイケアユニット業務、妊婦・授乳婦や小児に関するシンポジウムなども採択された。さらに、地域医療や在宅医療、薬薬連携に関するシンポジウムも多数採択された。国際シンポジウムは、日本、中国、韓国、シンガポールからの参加があり、各国の薬剤師の取り組みや役割の変化などについて発表があった。

一般演題については口頭発表が366題、ポスター発表については1,295題が採択された(国際セッションを含む)。優秀演題に関して口頭発表から9題を選出し表彰した。ワークショップは「～ジェネラリストとしての薬剤師力を磨く～ 実践! 複合疾患を有する患者への薬学的アプローチ」および「落とし穴に陥らない臨床研究実践のための極意(入門編)」の2企画が実施され、いずれも参加者が熱心に受講していた。また、メディカルセミナーも40企画が最新のコンテンツを提供し、ほぼすべての企画が参加者で埋め尽くされる盛況ぶりであった。

今回は、薬剤師研修センター研修受講シールの管理方法変更に伴い当日配布の混雑を回避するため事前申請システムを構築した。会期中の研修受講シール受付では大きな混乱もなく運用することが可能であった。また年會初日の11月2日(土)の夕方、ラグビーワールドカップ2019日本大会決勝戦が予定されており、ポスター示説参加への影響が懸

念されたが、ポスター示説終了後、ポスター会場で試合の様様を Live 放映することを企画し、多くの参加者がポスター示説に参加した後に観戦を楽しむことができた。反省点としては、事前に入場者を考慮し余裕を持った会場の確保に努めたが、いくつかの会場では席が不足しご不便をおかけしたことを挙げる。しかし大きな混乱もなく盛会のうちに終えることができたのは、日本医療薬学会理事会・事務局のご支援と、組織委員・実行委員など多くの方々のご尽力の賜物であり感謝申し上げます。

第 29 回日本医療薬学会年会 優秀演題一覧

演題番号	筆頭演者氏名	筆頭演者所属	演題名
2-9-O15-2	富田 なつみ	名古屋市立大学大学院薬学研究 科病院薬剤学	PDE5 阻害薬による腎保護作用の検討— 慢性腎臓病モデルとネフローゼモデルか ら見えた知見—
2-9-O16-3	星川 昂平	浜松医科大学医学部附属病院薬 剤部	心不全患者におけるトルバプタンの血中 動態と内因性 CYP3A 活性マーカーに及ぼ す CYP3A5 および ABCB1 遺伝子変異の 影響
2-9-O17-4	木村 早希子	佐賀大学医学部附属病院医療安 全管理室	「術前中止薬管理 Web アプリ」の開発と有 効性・安全性の検証
2-9-O18-3	圓東 寛基	京都大学医学部附属病院薬剤部	ベンゾジアゼピン系睡眠薬が長期間投与 されている不眠症患者において、減量/変 更が睡眠および不安に及ぼす影響
2-10-O21-3	壁谷 めぐみ	名古屋記念病院薬剤部	地区薬剤師会を通じた保険薬局との双方 向性の病薬連携
2-10-O22-2	吉岡 睦展	宝塚市立病院薬剤部	宝塚市域における多剤併用関連因子の 調査
2-10-O23-1	岡本 明大	三重大学医学部附属病院薬剤部	ナルデメジン投与患者における下痢発現 の危険因子に関する後方視的調査
2-10-O24-1	矢内 貴子	国立がん研究センター中央病院 薬剤部	シスプラチン投与時の悪心・嘔吐予防に 対するオランザピン 5mg の有用性を検証 するランダム化第 III 相比較試験: J-FORCE study
2-11-O30-4	杉岡 まゆ子	岐阜薬科大学病院薬学研究室	小児のポリファーマシーが薬物有害事象 発現に及ぼす影響

優秀演題最終選考委員

委員長	寺 蘭 英之	鹿児島大学病院 薬剤部
委員	金谷 朗子	九州大学病院 薬剤部
委員	兒玉 幸修	長崎大学病院 薬剤部
委員	江本 晶子	佐賀大学医学部附属病院 薬剤部
委員	城野 博史	熊本大学病院 薬剤部
委員	龍田 良介	大分大学医学部附属病院 薬剤部
委員	平原 康寿	宮崎大学医学部附属病院 薬剤部
委員	諸見 牧子	琉球大学医学部附属病院 薬剤部
委員	幸田 恭治	山口大学医学部附属病院 薬剤部